

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 9 2004 年 5 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ソニー、機能を絞った低価格テレビ会議 PCS-11 を日本市場にリリース



1 月 29 日にプレス発表、北米市場に 2 月リリースした PCS-11 (PCS-1 の低価格、ストリップダウン型) は、日本市場でもリリースとなった。ソニーマーケティングは、5 月 18 日プレスリリースを行い PCS-11 の日本市場での販売開始を発表した。発売日は、5 月 19 日。希望小売価格は、548,000 円 (税抜価格)。5 月下旬から同社で開催する、「Professional & Business Solutions 2004」(東京、名古屋、大阪) で出展する。

CNAレポート・ジャパンの取材に対して、ソニーマーケティング コンテンツクリエイション&コミュニケーションマーケティング部 部長 岡本 哲治氏によると、「昨今、ビデオ会議は単なる出張費用の削減や危機管理のシステムから、経営ツールとしての位置づけが非常に濃くなっている。PCS-1 で好評を得た基本的な機能を堅持しながら、セットトップ型のグループ端末の裾野マーケットを飛躍的に拡大することを目的としており、従来の大手企業、官公庁以外の中小企業や、SOHO でも利用用途が広がる価格帯の実現を図った。」と今回の PCS-11 の製品開発の目的と位置づけについて説明する。

PCS-1 と PCS-11 とのスペック的な違いだが、映像符号化方式、音声符号化方式、IP 接続時の通信速度、映像出

力などの点が主な違い。

PCS-11 と PCS-1 主な違い

| | PCS-11 | PCS-1 |
|-------|--|--|
| 方式 | IP (H.323)、ISDN (H.320) | |
| 映像符号化 | H.261, H.263, H.263+, H.263++, H.264 | H.261, H.263, H.263+, H.263++ H.264 MPEG4 SP@L3 インターレース SIF 60fps |
| 音声符号化 | G.711, G.722, G.728 | G.711, G.722, G722.1, G723.1, G.728, G.729 MPEG4 AACmono *符号化方式によって IP 接続時のみ使用可能な場合あり。 |
| IP | 通信速度 64kbps ~ 1024kbps | 通信速度 64kbps ~ 1920kbps |
| 映像出力 | メインモニター出力 S-video x 1、コンポジット x1 2番目モニター出力 S-video x 1 | メインモニター出力 S-video x 1、コンポジット x1 RGB x1 2番目モニター出力 S-video x 1 RGB x1 |

PCS-11 は、PCS-11 と同様、IP ネットワーク対応を標準としており、映像符号化における国際標準 H.323 (最大 1Mbps) をサポートし、またオプションで、ISDN 回線での利用を想定した、H.320 での通信も可能 (最大 768kbps)。本体部とカメラ部は一体型ではなく柔軟な利用環境を想定した設計になっており、さまざまな会議室環境やオフィス環境など会議レイアウトに対応している。

筐体についてはデザインカラーの若干の違いはあるが、製品自体の大きさや重さについては、PCS-11 も PCS-1 も同じ。少し大きめの、余裕のあるビジネスバックであれば問題なく入るサイズで、本体だけで重さは 2.4kg と一般的な A4 ノート PC よりも軽い (軽量型の A4 ノート PC を除く)。PCS-11 は、PCS-1 を多機能モデルとした場合、機能・性能を絞りつつ、しかしビジネスミーティングに必要な基本性能・機能は保ちながら低価格化を実現した製品とみることができる。

また、PCS-1 と同様メモリースティックスロットを搭載するため、たとえば、メモリースティックを差し込むだけで特定の相手

に自動発信を行える、“プライベートアドレス帳面機能”を持つ。

加えて、エコーキャンセラー機能、映像符号化の最新版である、H.264 に準拠。さらに、ネットワーク環境を自動で認識し映像や音声パケット信号を制御する、自動レート制御・パケット再送機能(不安定なネットワーク通信環境でもテレビ会議通信の最適化を行い、影響を最小限に軽減するための、端末に内蔵された機能)を搭載。ADSL や FTTH サービス環境での使用を想定した PPPoE や、会議状況を安心した環境で行うための暗号化機能などは標準装備。モニターを2つ使うためのデュアルモニター機能もある。画面操作は、PCS-1 の操作の容易さを引き継ぎ同じユーザーインターフェイスとなっている。

PCS-1 との併売しながらかつ PCS-1 と一緒に使うことにより、よりユーザーのメリットが生きるように設計されており、1対1でのテレビ会議用途が多い場合は、PCS-11 だけでも基本的に充分かと思われるが、多地点会議やデータ共有会議(H.239 デュアルストリーム機能、デジタルホワイトボード受信機能など)などの場合は、多地点機能を搭載可能な多機能モデルの PCS-1 と併用、組み合わせて利用する方法を同社では提案する。

利用ニーズにもよるが、特に多地点接続やデータ会議などを想定しておらず、1対1のテレビ会議を主に使うという考えであれば、PCS-11 で充分と思われる。PCS-11 を市場投入することにより、さまざまなユーザーニーズに対応する機種を揃える。

関連記事(CNAレポート・ジャパン Vol. 6 No.2 2004年1月31日号、Vol. 5 No.12 2004年7月15日号、Vol. 5 No.9 2004年5月15日号 参照)

■NTTコミュニケーションとWebEx連携し、ウェブ会議サービス提供

NTTコミュニケーションズは、企業向けWeb会議サービス「.Phone Web Connect」を、6月1日から開始すると発表。インターネットに接続されたPCを使って、資料共有、アプリケーション共有、デスクトップ共有などが行えるサービス。企業向けなので暗号化されたセキュアな環境でWeb会議が行える。サービスエンジンは、米WebEx Communications社、及びその日本法人であるウェブエックス・コミュニケーションズ・

ズ・ジャパン(東京都港区)と連携し、WebExの「WebExミーティングセンター」のデータ共有機能を組み合わせてサービスを提供する。

「.Phone Web Connect」で提供されるサービスは、2種類あり、クラス1とクラス2とがある。クラス1は、VoIPを使った、インターネットを利用しているユーザーであれば契約可能なもの、そしてクラス2は、品質が高く、セキュアな音声を使つてのサービスとなる。「.Phone Web Centrex(IPセントレックス型のIP電話サービス)」を契約しているユーザーが対象になる。

またクラス1とクラス2にはそれぞれ、全てのデータ共有機能が可能な「タイプ1」と、基本機能のみの「タイプ2」からユーザーが選択できる。オプションとしては、SSL暗号化機能、言語オプションは、日本語、英語などを含め9言語に対応している。

提供されるウェブ会議機能は、ドキュメント共有、アプリケーション共有、デスクトップ共有、ホワイトボード、ファイル転送、チャット、投票、ビデオ映像、会議記録/再生がある。

(次頁へ続く)

-----<AD>-----



テレビ会議システムの
インテグレーター
V T V 株式会社
<http://www.vtv.co.jp/>

-----<AD>-----



ここまで出来る！今注目の
ビジネス向け Web 会議
(CUSeeMe の進化版)

ファーストバーチャルコミュニケーションズ株式会社
<http://www.fvc.com>

-----<AD>-----



アエスラ(Aethra Italy)
電話会議・テレビ会議
世界第4位のテレビ会議
メーカー

<http://cna.jp/aethra>

-----<AD>-----

初期費用としては、24 万円程度(1コーポレートサイト毎、基本工事料、交換機工事料、サイト構築費用合算)、月額費用としては、ポート利用料としてタイプ1が、29,600 円(税別)、タイプ2が 14,800 円(税別)。その他従量料金としてインターネット VoIP 利用料、Centrex 音声利用料、ポート超過利用料などが別途かかる場合がある。

■NEC エンジニアリング、多地点接続機能内蔵の VoIP 電話会議端末を発売



NEC エンジニアリング(東京都港区)は、VoIP 多地点会議が行える、電話会議端末「VoicePoint IP BR モデル」を5月11日から発売開始した。

VoicePoint IP BR モデルは、オーディオブリッジ(音声用多地点接続)機能を搭載しており、最大 4ヶ所を接続した VoIP の音声会議を行える。同製品は、H.323 と SIP に対応(デュアルスタック)しているが、多地点は H.323 プロトコルでは行えない。しかし、SIP プロトコルで対応する。オーディオブリッジ機能を搭載した製品は、国内では初めてという。音声は、7kHz 帯域を使うため、高品質な音声を実現している。

その他、従来モデルに対して、エコーキャンセラーの性能を向上させ、初期設定やメンテナンス等の設定メニューの操作性を改善し対話形式による直感的な操作を実現した。

BR モデルは、Ethernet 10Base-T/100Base-TX ポートを持ちながら、アナログ回線ポートも搭載しているため通常の回線でも電話会議は行える。

VoicePoint IP は、Basic モデル(希望小売価格(税込み)以下同:155,400 円)、IP モデル(176,400 円)、BR モデル(260,400 円)の3機種あり、各モデルを合わせて年間 6000 台の出荷を見込む。

* VoicePoint IP (CNA リポート・ジャパン Vol. 6 No.4 2004 年 2 月 29 日号 参照)

■米ポリコム、“ローロー”エンドテレビ会議セグメントに参入——H.264 に対応

米ポリコムは、北米市場向けに、2000USD(約 22 万円)を切るセットトップテレビ会議端末をリリースした。プレスリリースによると、SMB(中小企業 SOHO 向け)ユーザーセグメントマーケット向けに開発された製品。(ローローエンドセグメント、つまり ViewstationSP(定価 798,000 円税抜き)などをローエンドセグメントとみた場合、定価 20 万円から 30 万円帯の製品を便宜的に呼ぶ。)

日本を含め北米以外の市場での販売について具体的な日程は未定のようなが(米ポリコム情報)、北米のみに供給するという考えではないようなので、別途時期をみて日本でも販売開始になるのではないかと思われる。

製品としては、IP のみのモデル(1999USD:約 22 万円)と、ISDN も対応したデュアルモードモデル(2999USD:約 33 万円)の 2 機種あるようだ。スペック的にみた場合、IP は、512kbps までサポートし、画像符号化は、H.261、H.263+、H.263++、H.264 に対応。ISDN での通信速度は、128kbps をサポート。音声符号化は、G.722、G.722.1、G.711、G.728、G.729A とそして、ポリコムの独自方式である、Siren 14 に対応。暗号化 AES 機能。その他電話帳機能、システムマネジメント機能、QoS 機能(パケットエラー制御、接続速度自動アロケーション機能など、不安定なネットワーク通信環境でもテレビ会議通信の最適化を行い、影響を最小限に軽減するための、端末に内蔵された機能)、言語は、日本語を含め 11ヶ国語をサポートしている。

ポリコムの同社ホームページによると、テレビ会議製品を、会議室向け、オフィス向け、デスクトップ向けとカテゴリー分けしており、この V500 は、オフィス向けとしてラインナップされている。ちなみに、VSX3000 も同カテゴリーに入る。そして VXS7000 は、会議室向け、デスクトップには、ViaVideo II が入る。

VSX7000、VSX3000 のサポートする画像符号化だけを比較した場合、V500 がインターレス60fps Pro Motionをサポートしていない以外、H.261 から H.264 対応では同じくサポート。ちなみに ViaVideo II については、H.264 はサポートしないようだ。あとは、内蔵 MCU 機能をサポートするかどうか (VSX7000、VSX3000 はサポート)、自動追尾カメラ機能 (VSX7000 のみ) で、V500 性能的には遜色をあまり感じない設計になっている。

*VSX3000 (CNA リポート・ジャパン Vol. 6 No.8 2004 年 5 月 15 日号 参照)

*VSX7000 (CNA リポート・ジャパン Vol. 5 No.17 2004 年 10 月 15 日号 参照)

*ViaVideo II (CNA リポート・ジャパン Vol. 5 No.12 2004 年 7 月 15 日号 参照)

■タンバーク社、UK リッジウェーを買収

ノルウェーのテレビ会議メーカー、タンバーク社は、UK のリッジウェー・システムズ&ソフトウェア社を買収すると発表した。リッジウェー社は、ファイヤーウォール NAT 越えのソリューションを提供する会社で、IP Freedom の名称でそのソリューションが販売されている。

タンバークは、今回の買収により、リッジウェー社が持つ、このファイヤーウォール NAT 越えの技術を、タンバークのテレビ会議端末に組み込む。その結果、その端末ユーザーは従来のファイヤーウォール NAT の各種設定変更などを行わずに、企業ネットワークを超えた IP テレビ会議を簡単に行うことができるようになる。

IP Freedom は、テレビ会議 (H.323) を IP 上で行う上でネックとなっていた、企業のファイヤーウォールと NAT (ネットワーク・アドレス・トランスレーション) の問題を解決するソリューション。IP Freedom のサーバーを立て、H.323 クライアントソフトの設定を行うと、ファイヤーウォール内や NAT の環境により、プライベートアドレスを付与された IP テレビ会議端末であっても、外部の IP テレビ会議端末との通信が行える。

タンバークは、このリッジウェー社を 1600 万 USD (約 18 億円) で買収し、6 人の社員 (エンジニア) は、そのままタンバーク社員となる。

タンバークのテレビ会議製品は、ブイテック (東京都三鷹市) や NTT-ME (東京都千代田区) など販売している。

ショートニュース

◆AT&T は、同社が提供するテレビ会議サービスで、通信サービスと端末を一緒にサービス提供しているが、その製品として米ポリコムの新たに販売開始した、V500 を加えると発表した。

◆ノーテルネットワークスとポリコムが SIP ベースのテレビ会議で提携した。ラスベガスで開催された Networld+Interop で発表され、両社の製品を連携させたソリューションのデモを行った。ノーテルネットワークスは、同社のマルチメディア・コミュニケーション・サーバー 5100 を使い、ポリコムのテレビ会議端末 VSX7000 と、多地点接続装置 MGC-50 を連携させた、テレビ会議機能、プレゼンス機能、インスタントメッセージ機能を統合したソリューションを提供するようだ。ポリコム製品は、日立ハイテクノロジーズ (東京都港区)、プリンストンテクノロジー (東京都千代田区)、ダイトエレクトロン (東京都千代田区)、日立電線 (東京都千代田区)、ブイテック (東京都三鷹市) など取り扱っている。

◆米 Centra 社が同社のウェブ会議システムである Centra 7 のバージョン 7.1 をリリースした。バージョン 7.1 では、マイクロソフトのプロジェクト、Visio などとの連携機能を新たに追加、また一般電話回線などとの連携機能を強化、会議前後の管理機能の強化などが含まれる。日本では、マクニカ (神奈川県横浜市) が販売している。

◆米 KVM テクノロジーズ社、“LifeSize Communications”と社名を変更した。KVM テクノロジーズは、クレイグ マロイ氏など元ポリコム社員が、次世代のテレビ会議システムを開発する目的で 2003 年 1 月に創立した会社。1800 万 USD (約 20 億円) の資金調達で設立。クレイグ マロイ氏は、ポリコム社が 1998 年に買収したビア・ビデオ社の CEO 兼創業者。KVM の略は、Kenoyer Malloy Video。(CNA リポート・ジャパン Vol. 5 No.9 2003 年 5 月 15 日号 参照)

◆フロスト&サリバンの世界ウェブ会議市場統計によると、米 WebEx 社 (ウェブエックスコミュニケーションズ) のウェブ会議市場でのシェアが 67% に増加したと報告。ウェブエックス社の日本法人は東京港区。最近日本語サイトを立ち上げ、今後日本での事業展開を本格化する。

◆日興コーディアル証券は、2005 年までに 10,000 台のシスコの IP フォンを導入する。導入に関わる全体設計、構築、保守等についてはシスコのゴールドパートナーのネットマークスが

担当する。機器導入は昨年 2003 年 10 月に開始され、現在は本社機能やトレーニングセンターに 1000 台の IP フォンが設置されているが、本格始動は 2004 年 5 月から。ネットワークの速度を増速し、IP-VPN でネットワーク化された広域 WAN から、2 系統の広域イーサネット網に主要拠点間を 100Mbps x2、支店で 10~20Mbps の帯域を確保する。

◆米 MCI とマイクロソフト、MCI の音声会議サービスとマイクロソフトの Office Live Meeting を統合し今後の遠隔コラボレーションソリューションの共同開発と、販売を含めたマーケティング活動を行っていくことで合意した。マイクロソフトの Office Live Meeting をベースに MCI のウェブ会議サービスとして提供する。

◆イスラエルのラドビジョン社製、viaIP(多地点接続装置)、iVIEW DCS(データ共有会議サーバー)、ECS ゲートキーパー v.3.5 などが、米国防省(DoD)の DCTS 基準で承認されたため、今後米国防省内ネットワークで活用されることになった。ラドビジョン製品の日本での取扱いは、ブイテック(東京都三鷹市)やマクニカ(神奈川県横浜市)、など。

◆イスラエルの VCON 社が販売する、音声会議多地点接続装置(IGC 2000)が米 WebEx 社の WebEx ミーティングサービスに対応。IGC2000 ユーザーが簡単に、VCON の WebShare アプリケーションか、今回の WebEx ミーティングサービスを使うことにより、簡単にウェブ会議を行うことができるようになる。対応する IGC2000 はバージョン 6.5 からとなる。

このバージョン 6.5 のリリースは公式的には暦月で 2004 年第二四半期を予定しており、既存の IGC2000 ユーザーは無償でアップグレードができるようだ。このバージョン UP により、WebEx サービスに対応するだけでなく、言語選択の拡大(フランス語、ドイツ語、スペイン語、英語)、LADP ディレクトリーサービス、ポート予約などの機能も追加。日本では、日本システムウェア(東京都渋谷区)が日本での VCON 一次代理店になっている。

◆米ファーストバーチャルコミュニケーションズ(FVC)は、3名の役員就任を発表した。ワールドワイドセールス担当副社長に就任した Keith A Zaky 氏、マーケティング担当副社長に就任した Duncan H. Campbell 氏、また、Critical Path 社の財務担当副社長で監査役であった、Andrew P. Morrison 氏が FVC の監査役に就任する。FVC は、H.323 ベースの PC ウェブ会議ソリューション ClickToMeet を提供

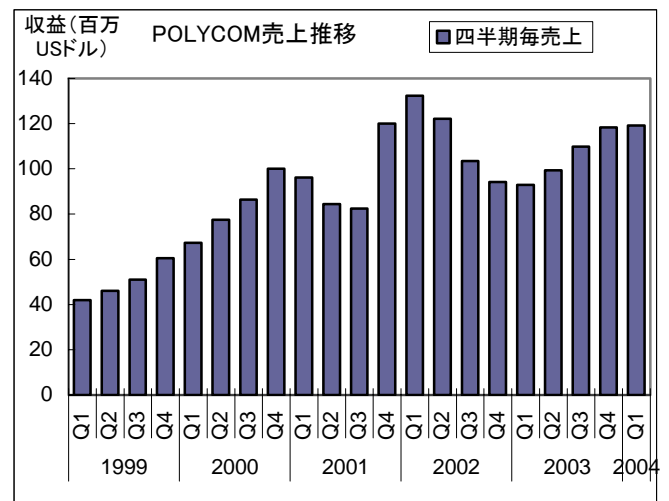
している。ネットワンシステムズ(東京都品川区)など販売代理店。(写真は、今年4月に舞浜で開催されたインテル・デベ



ロッパ・フォーラム Japan Spring 2004 のアナンド・チャンドラシーカ氏基調講演中に紹介された ClickToMeet : 写真提供:ファーストバーチャルコミュニケーションズ日本法人)

業績発表:第一四半期(2004年1月—3月)

■ポリコム



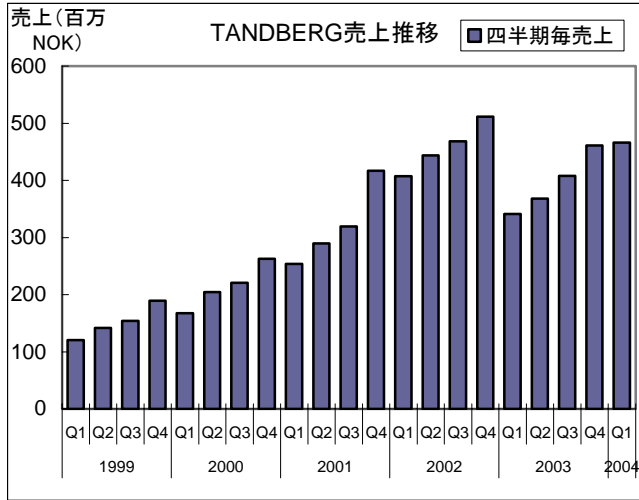
米ポリコムの第一四半期の売上は、1億1910万USD(約133億8千万円)を計上。2003年第四四半期に比べ0.7%増。2003年第一四半期に比べ28.2%増の結果だった。

プロフォーマベース(見積決算)での純利益は、1290万USD(約14億5千万円)、GAAP(一般会計原則)ベースは、330万USD(約3億7千万円)となった。キャッシュフローは24四半期プラスで推移している。現金残高は、監査前の数値で、1億9900万USD(約224億円)。

VSX7000の売上げが好調と同社CEOロバートハガティ氏は

プレスリリースの中でコメントする。

■タンバーク



*グラフはノルウェー通貨 NOK 表示。

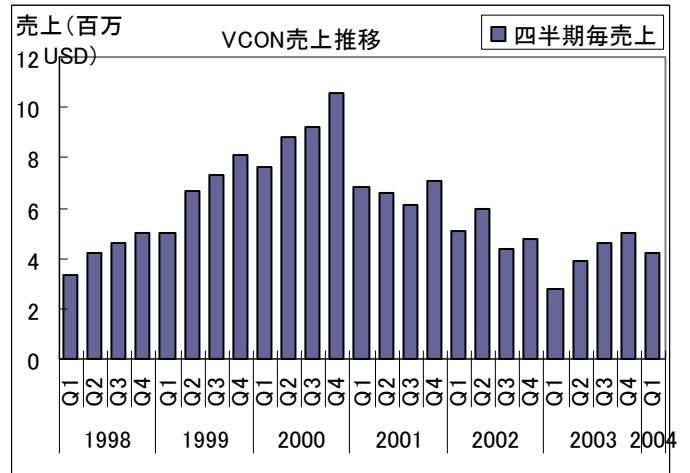
タンバークの第一四半期の売上は、6780 万 USD(約 76 億円)を計上。5,901 台同期間に販売した。前年同四半期に比べ、36.7%売上増。前年第四四半期に比べ、1%増であったが、販売台数については、前四四半期に比べ 3.5%増。

営業利益は、1490 万 USD(約 16 億 7 千万円)。キャッシュフローはプラス。現金残高は、2 億 7210 万 USD(約 305 億円)。

北米では好調なスタート、欧州中東アフリカ地区では記録的な売上げ、アジア太平洋地区では、中国、日本、オーストラリアでの売上げが加速化していると分析している。中国では、行政部門での部外部内間通信に導入、日本を含む東アジア地区では各メーカー系のユーザーで導入が進んだ。

シスコとの関係は今後も強化されていくようだ。

■VCON



イスラエルVCONの第一四半期の売上は、420 万 USD(約 4 億 7000 万 USD)を計上。前四半期に比べ 16%減となったが、前年同期四半期に比べ 51%の売上増となっている。

損失については、200 万 USD(約 2 億 2 千万円)であったが、損失は新製品の市場獲得戦略に負うところが大きく、販売及びマーケティング費用に相当額を投入したというポジティブな原因と分析している。

セミナー・展示会情報

国内

■TANDBERG 製品を中心とする IP 映像通信会議トータルソリューションセミナー

会期 : 平成 16 年 5 月 28 日(金) 13:30~17:20

(受付開始 13:00)

時間 : 10:00~18:00

場所 : 神保町三井ビル 11 階

NTT-ME プレゼンテーションルーム

主催 : NTT-ME

<http://nttiivs.ntt-me.co.jp/seminar/2004/tandberg0528.html>

■ソニーProfessional&Business Solutions 2004

会期 : 平成 16 年 5 月~6 月

時間 : ウェブサイト参照

場所 : 東京(5 月 27 日・28 日)、名古屋(6 月 1 日・2 日)、大阪(6 月 8 日・9 日)

主催 : ソニーマーケティング株式会社

<http://www.sony.jp/products/Professional/biz/>

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective

Since December, 1999

By Keisuke Hashimoto

*PCS-1 などの展示やソニーテレビ会議のセミナーセッションあり。

■MeetingPlaza 第1回セミナー

「Web 会議を活用した、経営コストの削減・コミュニケーションビジネス革命」

会期 : 平成 16 年 7 月 8 日(木)

時間 : 13:30~17:00(受付:13:00 より)

場所 : 日経 BP ラーニングセンター

主催 : NTTアイティ株式会社

・御手洗大祐(みたらいだいすけ)氏シーネットネットワークスジャパン(株)代表取締役社長などの講演と MeetingPlaza の紹介。

<http://asp1.meetingplaza.com/seminar/seminar.html>

海外

■INFOCOMM 2004

日時: 2004 年 6 月 5 日(土)~11 日(金)

会場: 米アトランタ、Georgia World Congress Center

主催: ICIA

*テレビ会議専門のパビリオンなど設置。

詳細:<http://www.infocomm.org/>

■WR Summit 2004

日時: 2004 年 7 月 14 日(水)~16 日(金)

会場: 米ボストン、The Colonnade Hotel

主催: Wainhouse Research LLC

*テレビ会議、音声会議、ウェブ会議のカンファレンス

詳細:<http://www.wainhouse.com/summit/index.html>

BCSTokyo2004



テレビ会議・電話会議・ウェブ会議専門の展示&セミナー
詳細は→ <http://cnar.jp/bcs/> (事前登録制)

会期 : 平成 16 年 6 月 10 日(木)・11 日(金)

場所 : 財団法人機械産業記念事業財団 テピア

内容: 有料セミナーセッション(ジェネラル・テクニカル)

出展企業21社による製品の展示とプレゼン発表。

■ゴールド出展企業(16社)

株式会社アイピー・ネット

アエスラ

ウェブエックス コミュニケーションズ ジャパン株式会社

株式会社ヴォルフビジョン

NTT アイティ株式会社

NTT コムウェア株式会社

コンピューネティクス/株式会社 NTT-ME

シスコシステムズ株式会社

TANDBERG

株式会社テリロジー/SantaCruzNetworks

トーメンサイバービジネス株式会社

日本システムウェア株式会社/VCON Ltd.

ネットワンシステムズ株式会社/ First Virtual Communications

株式会社日立ハイテクノロジーズ

ポリコム株式会社

丸紅テレコム株式会社

■シルバー出展企業(5社)

ジェネシス・カンファレンシング株式会社

ソニーマーケティング株式会社

株式会社ブイテック

パスカルBB株式会社

マクニカネットワークス株式会社(RADVISION/Centra)

■後援

株式会社シード・プランニング

HATS 推進会議

ビジュアルコミュニケーション推進協議会

■協賛

インターナップ・ジャパン株式会社

株式会社ドリームトレインインターネット

編集後記

今回の BCSTokyo2004 では、主要各社の製品やシステムが並びます。その場で各社の製品を一度に見比べることができるといのはあまり機会がないかと思います。ご都合がつかうでしたら是非ご来場ください。

CNA Report Japan(シーエヌイー・レポート・ジャパン)

編集長 橋本 啓介 k@cnar.jp(CNA Report Vol 6. No.9

2004 年 5 月 15 日号終わり)次号 Vol 6. No.10 は、2004 年 6

月 16 日頃の発行を予定しております。ありがとうございます。

5 月 31 日号は BCSTokyo2004 の準備の関係でお休み。